

第 22 回

ヘルスリサーチフォーラムが

11 月 28 日(土)に

千代田放送会館にて開催されます。

当院からは

血管外科センター長 今井崇裕 医師が

学術発表致しますので、ご紹介致します。

○ 開催予告 ○

第22回 ヘルスリサーチフォーラム及び 平成27年度 研究助成金贈呈式を 開催いたします！

参加費
無料

基本テーマ：地域を守るヘルスリサーチ

- 日 時：平成27年11月28日（土）9時30分～18時15分（予定）
- 会 場：千代田放送会館（東京都千代田区紀尾井町）
- 内 容：プレゼンテーション形式での発表（ホールセッション及びポスターセッション）
- 主 催：公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団
- 後 援：厚生労働省（予定）
- 協 賛：一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構（予定）

第22回ヘルスリサーチフォーラム プログラム

| セッション | 座長 | 採択分類 | 発表者氏名 (敬称略) | 研究テーマ | 所属 | 職名 |
|----------------------------------|----------------|-----------------------------------|----------------|---|-----------------------------------|------------------------|
| ① ポスター 10:00 11:35 | 永井 良三 先生 | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 年齢制限なし | 中井 祐一郎 | 産科医療における臨床的問題の倫理的・法 学・女性学的検討 | 川崎医科大学 産婦人科教室 | 准教授 |
| | | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 年齢制限なし | 構木 晶子 | 植込型除細動器患者のQOL向上をめざした 精神的ケアの構築 | 九州大学大学院 医学研究院 保健学部門 | 教授 |
| | | 平成25年度(2013年) 国際共同研究 | 堀内 成子 | アフリカにおける思春期リプロダクティブ・ヘル スプロモーション | 聖路加看護大学 (現:聖路加国際大学) 看護学部 | 教授 |
| | | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 満39歳以下 | 高柳 泰 | リスク管理手法を用いた再生医療における 質管理方法の開発 | 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学 眼科学 | 特任研究員 |
| | | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 年齢制限なし | 鈴木 真知子 | 視線入力による重度障がい児コミュニケーション ン力育成モデル開発 | 京都大学医学研究科 人間健康科学系専攻 看護科学コース | 教授 |
| | | 一般演題 | 柳 敏晴 | ヘルスプロモーションとしてのウエルネス教 育の展開—大学における教養教育としての 必要性— | 神戸常盤大学 教育イノベーション機構 | 機構長・教授 |
| ② ポスター 10:00 11:35 | 長谷川 剛 先生 | 平成25年度(2013年) 国際共同研究 | 石橋 良信 | 大規模水害における保健医療のための水環 境の改善 | 東北学院大学 工学部 環境建設工学科 水質衛生学研究室 | 大学院 工学研究科長・ 教授 |
| | | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 満39歳以下 | 武井 優子 | 寛解状態にある小児がん患者に対する心理 社会的支援体制の構築 | 宮崎大学医学部附属病院 | 臨床心理士 |
| | | 平成25年度(2013年) 国際共同研究 | 間辺 利江 | インフルエンザ感染に関する社会経済的要 因と教育介入研究 | 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 | 公衆衛生学専 攻専門職学位 課程 |
| | | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 満39歳以下 | 林 亜紀 | 慢性疾患の自己管理におけるPHRの有用性 の評価 | 東京大学大学院 医学系研究科 健康空間情報学講座 | 特任研究員 |
| | | 平成25年度(2013年) 国内共同研究 満39歳以下 | 上野 悟 | 臨床試験の品質向上を目指した統計学を用 いたモニタリングの検証 | 筑波大学 医学医療系 | 助教 |
| | | 一般演題 | 今井 崇裕 | 外来診療を科学する ～病院は魅力的な職場である～ | 医療法人康仁会西の京病院 血管外科センター | センター長 |

第22回ヘルスリサーチフォーラム 一般演題 発表要旨

| | |
|----|------|
| 氏名 | 今井崇裕 |
|----|------|

| |
|--|
| 発表演題(タイトル)30文字程度を目安として下さい。 |
| 外来診療を科学する ～病院は魅力的な職場である～ |
| 要旨(以下の項目につき、合わせて800字程度にまとめて記入してください) |
| <p>【目的】 病院にはドラマがある。生きるか死ぬかという場面に遭遇し、患者さんはその家族も含めて、人生の喜びを感じることもあれば、悲しみに包まれることもある。医療従事者はそれを分かち合うことのできる魅力的な世界にいる。今回、この魅力的な世界の入り口ともいえる外来診療をより良いものにするために追求し「科学」した結果を報告する。</p> <p>【対象と方法】 なんとなくの主観ではなく、スコアリングして評価した。外来診療を①患者満足度 ②医療重症度 ③収益貢献度と3つのセグメントに分類する。①患者満足度の評価対象は医療の質、スタッフの対応、施設の設備などが感じ方に個人差があり、評価に主観が入る。ここでは満足なら幸せを感じるのではないかと考え、「幸せ度」と名付けて、個人の生活に直結するさらに5つのセグメントに分類した。各10点満点でスコアリングを行いより高得点が「幸せ度」が高いと仮定した。②重症例は医療の質が求められ、質を追求することでスタッフのモチベーションも保たれる。医療重症度が高ければ入院に繋がると考え、入院確率を評価した。③恒久的に医療を提供するには収益を上げなければいけない。収益貢献度では一人当たりの単価を評価した。①～③の合計点数が高ければ、よい外来診療を行っているのではないかと考えた。</p> <p>【結果】 ①患者満足度は一人あたりの得点が高く、効率よく診療を繰り返さなければ高得点にはならなかった。②医療重症度における入院確率は初診患者で34.4%、再診5回以上の患者で1.1%であった。③収益貢献度では外来初診紹介患者で16,645円であり、再診5回以上患者では3,595円であった。1人の紹介初診患者は18人の再診5回以上患者と同等であった。しかし再診5回以上患者は外来患者全体の85%を占め、業務労力の大部分はそこに注がれていた。</p> <p>【考察】 合計点数を高くするには、①患者満足度では数多く診察を繰り返し。②医療重症度では入院確率の高い、紹介初診患者を中心に診療を行い。③収益貢献度では、再診患者を減らして紹介初診患者を増やさなければならない。よい外来診療とは「紹介初診患者を増やし、再診患者を効率よく診察する」ことなのだろうか？ 個人的な話だが、北海道にある父の病院が多大な負債で経営が行き詰った。40年近くほぼ休みもとらずに働いてきた結果に私は納得できず思い切り父を罵倒した。そのとき同席していた弁護士である従兄弟がこう反論した。「全てがお金だけではないと思う。いままで人の命を助けて感謝された気持ちとかは数字では評価できないと思うよ。」やはり医療の世界は魅力的だと実感した。</p> |
| キーワード(5つ以内) |
| 外来診療 患者満足度 医療重症度 収益貢献度 |

(2ページ以上にわたらないよう、文字制限数にご留意下さい)